

1 経絡通電療による白血球、リンパ球数の変化データ報告

2006年から年4回の血液データがあり、初期胃がんを告知された2009年経絡通電治療開始前、治療後胃がん消失後の血液データの変化をまとめた。

元来、白血球は4000個、リンパ球も1000~1200個前後と低く、免疫が弱い状態が続いていた。結論からは通電治療開始後リンパ球数は1216個から1410個と増加経絡通電治療によって免疫力が増加し、初期胃がんが消失したと推定される。(データ数、標準偏差で検証)

2 血液データ標準値

白血球数の正常範囲は 3700~9700個

リンパ球割合正常値は 35~41%

リンパ球割合が少ないと免疫力が弱い

顆粒球割合正常値は 54~60%

顆粒球割合が多いとリンパ球割合が減少

リンパ球数は白血球数にリンパ球割合を乗じ求める 1300個以上が好ましい

3 リンパ球数と免疫力

自律神経免疫治療を行なっている国際的血液学者新潟大学の安保教授の著書免疫革命によれば、がんや難病などは、つめ揉みや鍼灸、漢方で体の自律神経を正常化し免疫力が上がれば直り、その治療症例から、”治療で白血球内のリンパ球割合が25%以上、リンパ球数1300個以上になれば、がん患者の70%が快方に向かう”

抗癌剤は免疫を落低下させ、特に放射線治療を実施した患者は免疫力が落ちリンパ球割合が20%以下、リンパ球数では1000個以下の例が多くこの状態では患者の予後はよくない。

今回この数値を自分の血液データと比較参照してみることにする。開業医でも血液検査時、白血球分画と依頼すればよく、白血球数、リンパ球割合検査は簡単に出来て価格も安い。

4 血液データ纏め

	データ数/σ	リンパ球数	リンパ球%	白血球数	顆粒球数	顆粒球%
2006~2009.9	18	1216	27.9	4394	3072	69.7
治療前平均値	標準偏差σ	185	3.8	702	584	3.9
2009.9治療後	8	1410	30.7	4600	2997	65.2
2010.5迄の平均	標準偏差σ	219	4.1	339	294	4.0

データの検証: データ数は治療前18個、治療後8個、ばらつきはあるが信頼性がある。

標準偏差σはデータの平均値からのズレを示し、例えばσ219は平均リンパ球数1410個

に対し、219個上下する確率が68%である事を示し、219個減少し1191となる確率は

(100-68)/2=17%である。このことから、リンパ球が1191個となり、免疫が減少する確率は

17%位で少ないと言え、治療後は免疫が上昇していると言える。

下記に時系列データを示し、横軸は日時で10進法換算、6.18は2006年3月6日を示す

